

Yamakado News Letter



就労実践で2名が 山門水源の森で活動を開始

長浜マッチングセンターの就労実践事業を西浅井総合サービスが受託し、山門水源の森を現場として2名の男性が8月1日から活動を始めました。期間は12月中旬頃までの予定です。階段整備や倒木処理、流路整備、施設の保守など山積みの課題に対し、道具の使い方はもちろん、この森の生物多様性やその保全なども学びつつ作業をしてもらっています。

今月は第一、第三土曜日の保全活動日には会員と共に階段整備を、また平日はアカガシ保存木の整備作業を主に作業してもらいました。アカガシ保存木の整備とは以下のような作業です。昨年に大津祭保存会との協働事業で保存指定した株以外の萌芽株を除去しました。それが現場に放置したままになっているので、今

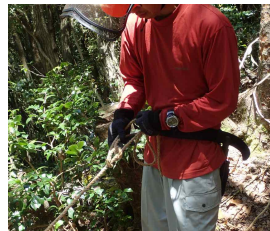


貴島俊史さん（左）、前田壯一郎さん（中央）

後の管理のことも考えて撤去・整理する作業です。傾斜地に倒れている伐倒木が多く、これらをロープウインチや滑車を使って引き上げ、集積しています。



チェーンソーの目立て



モヤイ結び



引き上げる丸太をロープに繋ぐ



ウインチで引き上げる

京都大学演習林 芦生生物相保全プロジェクト 公開成果報告会に参加

8月25日に開催された、芦生生物相保全プロジェクト公開成果報告会に、会員5名と就労実践の貴島さんが参加しました。

京都大学芦生研究林は20年前からシカ食害の問題を抱えていて、その影響による環境の急変で希少植物を含む生態系が大きな影響を受けました。そうした状況の中でどのように生態系を保全していくか調査研究し、また大規模獣害柵の設置や有害駆除も行ってきました。森林面積が4,200haと、山門水源の森64haと比べて保全規模では参考になりませんが、活動さ



会員と階段修繕作業、昨年の台風被害木の処理 Photo 藤本H

れている内容や方向性では参考になる事例が多数あります。

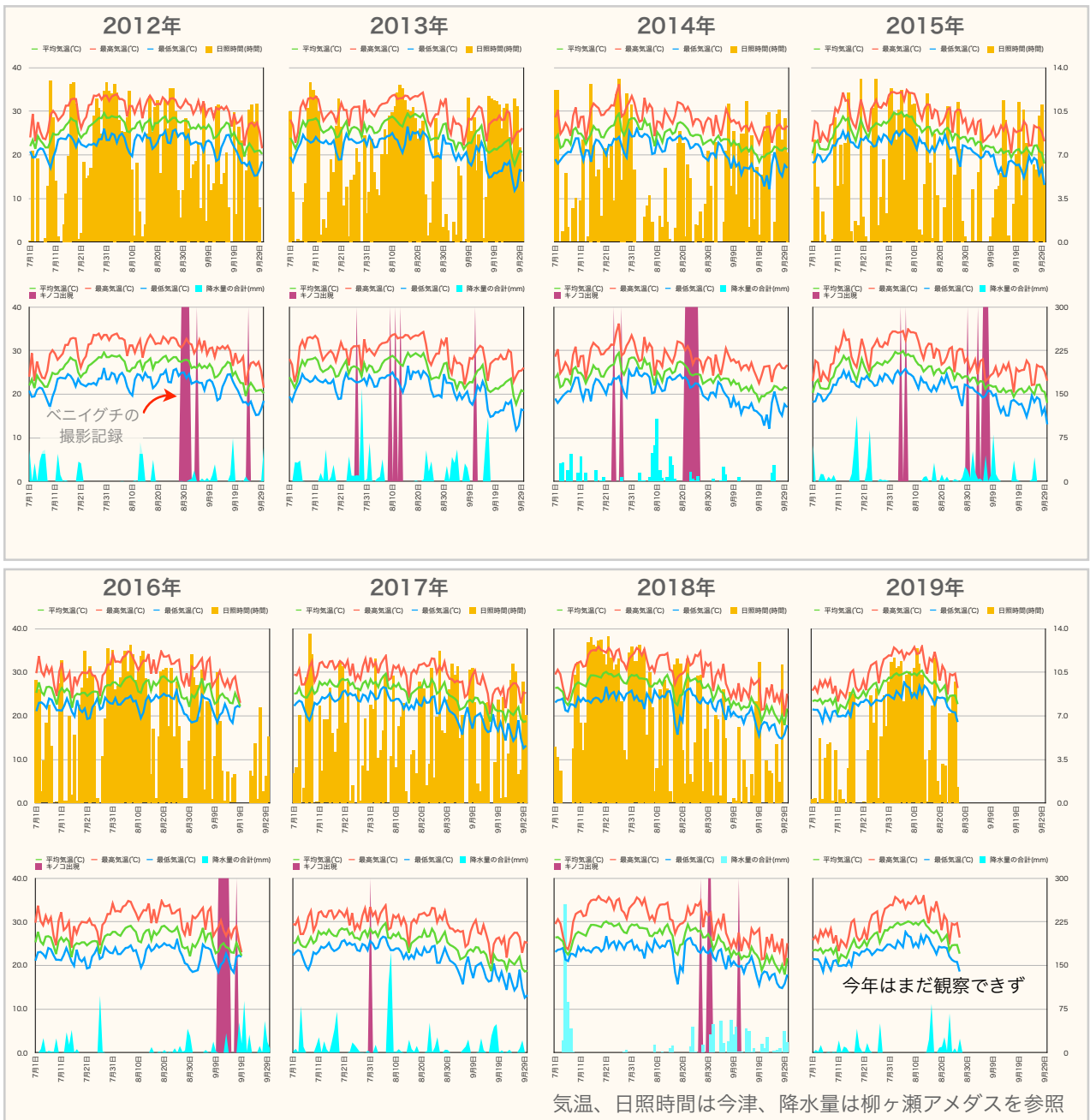
個体数管理が進み、現在の芦生研究林での推定シカ密度は2~3頭/km²ですが、植生の回復は思わしくないとのこと。山門水源の森の推定密度は数十頭/km²程度と考えていますが、それでも最悪期に比べ植生の回復がみられるようになってきました。下層植生が極端に悪化する前に対策を打てたのが、幸いしたのではと考えています。



シカ対策を語る高柳氏



総合討論の様子



気温、日照時間は今津、降水量は柳ヶ瀬アメダスを参照

今月の森の様子



ベニイグチ 2014/7/27

7月は日照不足が続き、気温も低めに推移しました。しかし8月に入ると一転し気温は高めで、雨が全く降らない日が続きました。しかし、それも盆まで。台風10号が通過した後は雨がちな天気が続いています。

そんな中、森を観察していて気になるのは、小型のキノコはチラホラ観察できますが、例年夏に発生する大型のキノコが極端に少ないことです。過去には9月以降にも出現記録があるので出現はこれからの可能性もあります。しかし、こう少ないのは気がかりです。

キノコの出現と気象条件との間で何か関連性が見られないでしょうか。気温と日照時間、降水量、それとキノコ出現に

は山門水源の森では比較的メジャーなベニイグチの観察記録のデータを2012年から2019年で集め、各7月から9月までの期間をグラフ化してみました。気温と日照時間は今津、降水量は柳ヶ瀬のアメダスのデータを参照し、キノコ出現には会員の活動報告書から「ベニイグチ」をキーワード検索し、報告書に写真掲載があった日を紫色のグラフで示しました。かなり手間を入れてグラフを作成しましたが、結果としては気温、日照時間、降水量とベニイグチの出現との間で関連性がありそうなサインは見つけられませんでした。

皆さんはどんな条件がキノコの出現に影響を及ぼしていると思いますか？